

新遊技機(管理遊技機、メダルレス遊技機)について

【目次】

1. 新遊技機の基本要件
2. 基本構想
3. 新遊技機のメリット
4. 新遊技機普及による今後の展望
5. 遊技機情報センターで確認を行う情報
6. 現行機と新遊技機の相違点
7. CRユニット、メダルサンドと専用ユニットの相違点

令和2年11月24日

日本遊技機工業組合

日本電動式遊技機工業協同組合

1. 新遊技機の基本要件

(1) 経緯と要件

新遊技機(管理遊技機及びメダルレス遊技機)は、ギャンブル等依存症対策強化の一環として、改正された規則(平成30年2月施行)により、開発可能となった

【目的】

「過度な射幸性の監視と抑制」を目的に、「出玉情報等を容易に確認できる遊技機の開発・導入」

射幸性が過度に高まることを防止することで、金額、遊技時間、遊技回数を適正化していく。

【要件】

「出玉情報等を容易に確認できる遊技機」の要件は、

- ① 出玉情報等を一元的に確認できるシステムに接続する。
- ② 正確に出玉を把握するために、物理的な遊技球等を使用せず、遊技球等の数を電磁的に記録する。

2. 基本構想

共通

- ・ 「管理遊技機」用の専用ユニットと「メダルレス遊技機」用の専用ユニットの共通化
- ・ 既存のCRユニットのインフラの使用
- ・ 出玉情報等(自主規制で取り扱う情報含む)の一元管理
- ・ 不正改造されたおそれがある遊技機の特特定と確認

日工組

- ・ 機歴の管理による設置情報の明確化と、不正遊技機の排除

日電協

- ・ 自主規制に抵触する型式の特特定

3. 新遊技機のメリット

(1) 期待できる効果

感染症対策強化

共通

- ・遊技客にとっての利便性、衛生面の向上

ギャンブル等依存症対策強化

共通

- ・出玉情報等の一元的管理による、過度な射幸性の監視と抑制

ゴト行為の撲滅

共通

- ・なりすまし基板等による不正の防止（CPUの固有ID番号を照会）

管理遊技機

- ・ピアノ線ゴト、セルゴト、くぎ曲げゴトの防止（現行機と同等以上のセキュリティ）
- ・磁石ゴト、遊技球の持ち込みゴト、糸付き球ゴトの撲滅

メダルレス機

- ・ホッパー、セレクターの不要による、投入、払出系のゴト行為の撲滅
- ・メダル持ち込みゴトの撲滅

ホール様への負担軽減

共通

- ・遊技球、遊技メダルの保守、管理等に係る費用の削減
- ・ホール従業員の負担軽減

4. 新遊技機普及による今後の展望

短期的展望

(1) スペック・仕様の差別化

【将来展望】新遊技機専用の内規を制定（予定）。

詳細内容については行政と交渉中。

4. 新遊技機普及による今後の展望

中期的展望

(2) 過度な射幸性の監視と抑制

【将来展望①】 過度な射幸性を示された遊技機の把握

現状では、遊技機の設置台数、設置店舗等が厳格には把握できませんでしたが、新遊技機では出玉情報、型式情報、店舗情報を一元管理することができるため、これら一連の情報を基に、過度な射幸性を示された遊技機（型式）の設置台数、設置店舗の把握が容易となると考えています。

【将来展望②】 蓄積した統計データをエビデンスとして、規則、規制、内規等の改正

将来の規則、規制、内規等の改正に関して、蓄積した統計データをエビデンスとして使用することが可能となると考えています。

4. 新遊技機普及による今後の展望

中期的展望

(3) 不正改造の根絶

【将来展望①】 不正改造事案の更なる早期の対応

現状、不正改造事案はホールの日常点検等で確認、対応をしています。

新遊技機については、遊技機情報センタで出玉等の異常値を検出した時点で、メーカー等が早期の対応をとることが可能であると考えています。

【将来展望②】 第三者機関における効率的、迅速な検査の実施

将来的には遊技機情報センタを第三者機関に移管することにより、ランダムに立ち入り検査を行っていたことが、効率的、迅速に立ち入り検査を行うことが可能となると考えています。

4. 新遊技機普及による今後の展望

長期的展望

(4) 依存対策の推進

【将来展望】 18歳未満の入場監視、自己申告プログラムをシステム化

現状、18歳未満の入場の監視、自己申告プログラムによる「のめり込み」の防止の声掛けについてはホール従業員に過度な負担を強いていると考えています。

将来、18歳未満の入場監視、自己申告プログラムをシステム化することにより、ホール従業員の負担を減らすだけでなく、更なる依存防止対策の一助となると考えています。

4. 新遊技機普及による今後の展望

長期的展望

(5) ホール手続き業務の簡素化

【将来展望】ホール営業所における変更承認申請手続き簡素化の展望

業界全体の問題として、ホール営業所における新台設置時や部品交換時の申請手続きが大きな負担となっていることから、遊技機情報センタで蓄積された情報をもとに、行政側と型式の概念について検討・交渉を進めることで、遊技機情報センタの情報を担保とし、遊技機設置時や部品交換時の所轄検査の簡素化や、届出自体を事後で受け付けていただくといった手続きの効率化に寄与できるのではないかと考えています。

5. 遊技機情報センターで確認を行う情報

(1) 基本構想に基づいて遊技機情報センターで確認を行う情報一覧

	情報一覧 (管理遊技機及びメダルレス遊技機共通)
1	主制御・枠用チップの固有 I D 情報
2	型式を特定する情報
3	型式の製造業者を特定する情報
4	不正・重大エラー等の情報
5	出玉情報 ※次頁参照
6	台番号 (ユニット番号)
7	カード会社ID
8	統一店舗コード

5. 遊技機情報センタで確認を行う情報

(2) 遊技機情報センタ（日工組、日電協内に設置）で確認を行う出玉情報一覧

	回胴式遊技機（メダルレス遊技機）	ぱちんこ遊技機（管理遊技機）	集計単位
1	投入枚数	発射遊技球数	1営業日
2	払出枚数	獲得遊技球数	
3	最大MY		
4	出玉率		
5	役物比率		
6	連続役物比率		
7	—	通常ベース	1営業日
8	—	役物連続作動装置の作動回数	
9	指示込役物比率	—	総累計
10	有利区間比率	—	
11	役物比率	—	
12	連続役物比率	—	
13	役物等状態比率	—	

6. 現行機と新遊技機の相違点

(1) 現行機（CR機）と管理遊技機の相違点

・ 現行機との相違点

大分類	小分類	現行機（遊技球有り遊技機）	新遊技機（管理遊技機）	備考
遊技性能	ゲーム性	-	明確な差別化を検討	
客の操作	玉貸し	玉貸しボタンは遊技機に搭載	玉貸しボタンはユニットに搭載	
	持ち玉精算	上皿・下皿⇒ドル箱	計数ボタン⇒ ユニットカード排出	
遊技機構造	持ち球	あり（上皿・下皿）	なし（デジタル表示）	
	主基板	2枚 （主制御基板・払出制御基板）	2枚 （主制御基板・枠制御基板）	
設備	遊技球	鉄球	非磁性体のステンレス球	
	付帯設備	CRユニット	専用ユニット	
	ホールコン接続	遊技機から（外部端子板）	専用ユニット及び HCBOXから	
	島設備（玉補給）	あり	なし（封入式）	
依存対策	出玉情報等送信	なし	あり	
感染症対策	—	なし	あり（遊技球非接触）	

6. 現行機と新遊技機の相違点

(2) 現行機（メダル有り機）とメダルレス機の相違点

・ 現行機との相違点

大分類	小分類	現行機（メダル有り遊技機）	新遊技機（メダルレス遊技機）	備考
遊技性能	ゲーム性	-	明確な差別化を検討	
客の操作	メダル投入	手入れもしくは投入ボタン	投入ボタンのみ	
	メダル精算	精算ボタン※⇒ 受け皿⇒ドル箱	計数ボタン⇒ ユニットカード排出	※貯留装置にメダル がある場合
遊技機構造	持ちメダル	あり（投入口・セレクト）	なし（デジタル表示）	
	主基板	1枚 （主基板のみ）	2枚※ （主基板、メダル数制御基板）	※主基板のみでも開 発は可能
	ホッパー	あり	なし	
設備	付帯設備	メダルサンド	専用ユニット	
	ホールコン接続	遊技機から（外部端子板）	専用ユニット及び HCBOXから	
	島設備（メダル補給）	あり	なし	
依存対策	出玉情報等送信	なし	あり	
感染症対策	—	なし	あり（メダル非接触）	

7. CRユニット、メダル貸機と専用ユニットの相違点

(1) 機能・構造の相違点 【PSA・認証協 共通】

・ぱちんこ

分類	CRユニット	専用ユニット	備考
ユニット機能	遊技料受付、遊技球の貸出、遊技球各台計数、会員カード受付など遊技を行うための機能	新たに遊技機情報取得及び送信（秘匿情報）機能追加 ※基本機能はCRユニット機能を踏襲	遊技機性能情報等については、ホール内システムへの直接送信は行えません。 ※ユニット事業者も取得・閲覧不可
ユニット構造	紙幣識別機、玉切りメカ、カード読取機、制御基板、ノズル、電源、ホルダー、本体シャーシ、各台計数ユニット等	玉切りメカ、ノズル、計数ユニットがなくなり、主基板等の変更、SC基板が追加となる	物理的に実遊技球を一切扱いません。
操作性	スイッチ及び液晶パネルにてタッチ操作	←基本的に同じ。ただし、玉貸・返却操作は遊技台からユニットに変更	
改造対応	-	改造費用が新規購入価格より安価となる機種に限り対応実施	【改造できないケース】 ・保守期間終了のため修理不可。 ・大半の部品が変更になり改造費が新規価格を上回る。 ・古い機種は改造後の品質保証ができない。

・回胴

分類	カード式メダル貸機	専用ユニット	備考
ユニット機能	遊技料受付、遊技メダルの貸出、遊技メダル各台計数、会員カード受付など遊技を行うための機能※遊技機接続は行っていない	新たに遊技機と接続が行われ、遊技機性能情報取得及び送信（秘匿情報）機能追加 ※基本機能はカード式メダル貸機を踏襲	遊技機性能情報等については、ホール内システムへの直接送信は行えません。 ※ユニット事業者も取得・閲覧不可
ユニット構造	紙幣識別機、メダルホッパー、カード読取機、制御基板、ノズル、電源、本体シャーシ、メダル補給口、メダル計数ユニット等	メダルホッパー、ノズル、メダル計数ユニット、メダル補給口がなくなり、主基板等変更、SC基板、IF接続が追加となる	物理的に実メダルを一切扱いません。 遊技機とユニットがP I Fケーブルにより接続されます。
操作性	スイッチ及び液晶パネルにてタッチ操作	←基本的に同じ	
改造対応	-	改造費用が新規購入価格より安価となる機種に限り対応実施	【改造できないケース】 ・保守期間終了のため修理不可。 ・大半の部品が変更になり改造費が新規価格を上回る。 ・古い機種は改造後の品質保証ができない。

7. CRユニット、メダル貸機と専用ユニットの相違点

※資料2：「新遊技機システム構成図」参照

(2) システム・コストの相違点 【ぱちんこ・回胴 共通】

・ PSA

大分類	小分類	CRユニット・メダルサント	専用ユニット	備考
システム	ホール内システム	管理サーバーにて売上および持ち玉データを管理するシステム	遊技機性能情報送受信対応が追加 その他は現行と同一	既存CRユニット、カード式メダル貸機との混在が可能。
	ネットワーク	INS回線と光回線を用いた売上管理センター接続を行う	光回線を用いた売上管理センター及び上位センター接続を行う	カードシステムとしてのホール内通信インフラに変更はありません。
コスト	①ユニット改造費	-	なるべく安価～新規購入価格(※1)	工事費・作業費は含まず
	①ユニット本体	多様なグレードとラインナップがあり、定価レベルで10万円以下～20万円近くの範囲。	現行CRユニットと同等以下(※2)	ユニット会社の営業施策により変動します。
	②付帯コスト	特になし	管理コンピュータのソフトウェアアップが必要(※3、4)	
	③通信費	使用回線種別や通信データ量により変動するが、凡そ毎月数万円程度と推定。	従来通り(ホール様負担) 光回線の導入費用(未導入の場合)(※5)	
	④システム料	カード会社ごとに決済方法、料金体系の相違があるが、大半は10数万円～30万円の範囲と推定。	現行カードシステムと同等、もしくは若干のプラスαの可能性あり。(※6) ただし、CRユニットやメダルレス遊技機が混在していてもワンシステムで対応可能。	ユニット会社の営業施策により変動します。

※1 保守期間終了のほか、新機能対応の改造費用が新規売価を超過するため(現品または設計が古く部品が廃品になる等、ほぼ全ての部品が変更になる)改造不可の機種があります。CRユニット単体完成品の部品構成にて品質を保証しているため、改造すると品質保証ができなくなる古い旧機種は改造可能対象より除外となります。改造可能な場合、改造範囲は機種によりまちまちですが、なるべく安価～新規価格(工事費・作業費は含まず)で対応可能な機種もあります。

※2 定価ベースでの試算です。

※3 古いサーバー(一例として6年以上前)はソフトウェアアップ不可のため、現在、複数社でハードウェアリプレイスも含め試算中(金額未定)です。導入検討時に各社にお問い合わせください。

※4 管理コンピュータが貸与ではなく買取の料金体系(その分システム使用料が割安)では、新規システム対応のためサーバーのハードウェアリプレイス費用(一例として200万円程度)が発生します。

レンタル、割賦等の施策を検討中です。但し、既存システムのバージョンによってはそれ以上かかる場合がありますので、導入検討時にユニット会社にお問い合わせください。

※5 通信回線は、原則、光回線への変更(ホール負担)が必要です

※6 ユニット会社センタシステム改修費の償却や遊技機情報センタ接続に係る継続発生費用等を勘案し、基本料金に若干の増額が避けられないケースがあります。

7. CRユニット、メダル貸機と専用ユニットの相違点

(2) システム・コストの相違点 【ぱちんこ・回胴 共通】

・ 認証協

大分類	小分類	CRユニット・メダルサンド	専用ユニット	備考
システム	ホール内システム	売上管理装置及び売上管理サーバーによるシステム	遊技機性能情報送受信対応売上管理サーバーに変更、その他は現行と同一	システムの情報保全、可用性、拡張性を考慮しサーバー化
	ネットワーク	INS回線を用いた売上管理センター接続を行う	専用光回線を用いた売上管理センター及び上位センター接続を行う	常時センター接続、通信料から光回線を標準回線とします。
コスト	①ユニット改造費用	-	50,000円～80,000円 *新規購入金額を超えない範囲(※1)	改造費が高額でも、ホール様が必要とされるのであればご検討致します。
	①ユニット本体	120,000円～180,000円 *基本的な提示価格	100,000円～150,000円 *あくまでも予定価格	グロスディスクカウント等により価格の幅があります。
	②付帯コスト	特になし	月額：35,000円～40,000円(管理サーバー及び専用光回線)	ネットワーク変更に伴うサーバーレンタル及び回線サービスの実施。
	③通信費	ホール様ご負担(INS回線にて月額平均8,000円～10,000円程度)	付帯コストに含まれます。	セキュリティー観点及びシステム保全の観点から回線サービスのご利用を推奨します。
	④システム料	月額：台当たり100円(全日加盟ホール)	月額：台当たり150円(全日加盟ホール)	上位センター接続に伴う通信監視や運営費用等の増加に対して一部ご負担をお願いします。

※1 保守期間終了のほか、新機能対応の改造費用が新規売価を超過するため(現品または設計が古く部品が廃品になる等、ほぼ全ての部品が変更になる)改造不可の機種があります。CRユニット単体完成品の部品構成にて品質を保証しているため、改造すると品質保証ができなくなる古い旧機種は改造可能対象より除外となります。改造可能な場合、改造範囲は機種によりまちまちですが、なるべく安価～新規価格(工事費・作業費は含まず)で対応可能な機種もあります。